報　　告

南スラヴェジ再訪記

富山県農村医学研究会　豊田文一

私は8月17—23日まで，昨年に引き続き南スラヴエジ（セレベス）に渡航した。その目的は富山インドネシア友好協会（会長林隆文友愛病院会理事長）が，スラヴエジにおいて平和財団を設立，その拠点としてウジンバンダン（マカツサル）に富山村を建設，その研修施設の開所式に，会員有志24名と行をともにした。今後これを中心として南スラヴエジにおいて文化，産業，科学技術の各分野における技術協力とともに発展途上にあるこの地の開発に力を注ぐ。この事業について該地の大学をはじめ関係諸官庁と協議し，将来の方途につき実りのある成果を得て帰国した。

私は，再びこの地に足跡を残したが，行事の余暇を縫って見聞した事項，心に残った事柄をここに叙述したいと思う。しかしこれは私の個人的見解もあり同行の各位の意見の齟齬があるかも知れないが，これを諒とせられよ。

トヤマ村開所式　入口（友好の館）

トヤマ村　研修宿舎（友好の館）

富山村開所式のアトラクション

富山村研修施設の医室

1．富山村界隈

富山村周辺の西南方は広漠とひろがる雑草地と疎らにはえる灌木帯が存在する。未だ所々焼畑も見られる。しかし近くの東に集落がある。ここまでは主要道路から舗装された道である。今後，開拓されてゆくのだろう。近くに農家が点々としているので，そぞろ歩きをしながら一軒の家に入り込んだ。ところがその庭先で，木臼に麦をいれ杵でつき粉を作っていた。それを〝ふるい〟でこしその日の糧にするらしい。その粉を側らの鍋に入れ煮ているので，団子のようなものを作るのだろう。

農家の麦つき（粉づくり）

製粉機を使用すればいいのだろうが，電力を求めるのはウジンパンダン市街に行かねばならないだろうし，貧しい経済力では，それも許されないと思う。何分にも市街へは10数kmある。また煙草が切れて雑貨屋へ入った。店にあるものは煙草，菓子，ビンに入った飲物位で，酒類はもちろんない。2―3坪位で店と住居が一緒である。煙草20本入り，邦貨で20円。

大学職員宿舎

しかしこの附近はハサヌイン大学に近く，今職員宿舎が作られつゝあり，その建築はしようしゃで近代的のよそおい，村落の家と天と地の感がする。富山村界隈は，漸次近代化してゆくように考えられ，私どももその将来に大きな期待をもっている。

富山村附近農村の雑貨店

2．インドネシア，スラヴエジの成り立ち

先史時代ジャワのソロ川の流域に化石人類が発見されている。発掘された遺物から類推すると旧石器時代（約100万年前）文化が当地にひろまっていたことを物語っている。

歴史にあらわれたインドネシア系種族はインド人の植民が西方から移住したと考えられる。東部スマトラから漸次西方ジャバ，さらにボルネオ，セレベスまで及んできている。最初はスマトラのパレンバンを中心として栄え，インド系文化国家シュリーヴイジヤヤは南海貿易の中心として，富力においても大発展をとげた。8世紀ジャワ中央にシヤイレンドレラと号した王朝が起り，ポロブドールの如き仏教遺跡を残した。この王朝はスマトラのシュリーヴイジヤヤ王朝と合併し，一時南海に強大な海上帝国を実現させた。その後これら王朝は分離あるいは統合を繰り返していた。その後の数世紀，蒙古軍が来襲し，その制圧下に一時期あったものの，マジセッパヒット王朝が，蒙古軍を撃退して，東インド諸

島を支配下に収めた。この王朝はインド系国家の最後の栄光をはなった。

アラビヤ人が南海に進出してきたのはかなり古い10—11世紀頃と考えられる。13世紀にスマトラにイスラム教が流入し，14世紀初めにマライに入りこみ，13世紀にジャバにその地歩を占めた。イスラムはバリ島を除き，この国をイスラム教一色に塗りつぶした。

近世に至りイスラム教徒の海上勢力を西ヨーロッパ人の進出で打破し始めた。ポルトガル人はアンボンを占拠し，モルツカ諸島の香料貿易を独占した。スペイン人はフィリツピンを版図としモルツカ諸島の香料貿易に進出してきた。しかしこの両国も，オランダがこれに代って東インドの海上権を奪い，これと前後して進出してきたイギリスと激しい抗争を開始した。17世紀の始め，オランダ人海将クーンはイギリス人の勢力を駆逐し，オランダ東インド会社を設立，イギリスと抗争が続けられた。この会社は当時のマタテーム王朝の領土を蚕食し，1814年，1824年にロンドン条約を結び，オランダはアジアにおける旧領土を放棄するとともにインドネシアにおける支配権をイギリスに認めさせ，こうしてジャワの土着王国，土侯国はオランダのまえに屈服してゆき，チモール(ポルトガル)，フイリツピン（スペイン領後アメリカ領）を除きインドネシアの大半は太平洋戦争勃発までオランダの統治下におかれた。

さてスラヴエジ（セレベス）であるが，13世紀末マジヤヒット王国の勢力圏内に入り，ヒンズー文化の影響を受けたが，後イスラム教が導入され，島の南方にひろがった。16世紀初めポルトガル船団が来航し，南部ゴワ王国と親交を結び，勢力の扶植につとめた。同世紀末オランダ人が来航し始め，1607年マカツサル（ウジンパンダン）に商館を開いてゴワ王国と確固たる貿易関係を打ちたてた。ついでスペールマン海将は反抗する土侯を屈服せしめ1667年条約を結んで，主権をオランダ東インド会社に譲渡させ，その勢力を確立した。そして完全にオランダの政令下に統合された。

北部メナド地方も17世紀中はスペイン人の勢力下にあったが，17世紀始めオランダ人が来航し，土侯を助けて勢力を扶植拡大し，1810年一時イギリス軍の統治下にあったが，オランダ人が主権を回復，太平洋戦争勃発まで続いた。

インドネシア共和国が独立すると，東インドネシア自治国に属し，1950年単一国家としてインドネシア共和国の傘下に入った。

この経緯について後述する。

ロッテルダム域
（オランダ政庁はここでセレベスを支配していた）

ロッテルダム城城壁の上
（ウジンパンダン）

3．大東亜戦争という言葉

私はかつて靖国神社の機関誌「やすくに」に原稿を依頼され，太平洋戦争という語を用

いていたが，これを大東亜戦争に訂正を求められたことがある。大東亜という言葉は，日本を盟主としてアジアを征服するというイメージを与えるので，私の気持にそぐはないので太平洋戦争という言葉を使ったわけである。

8月19日夜，ハサヌイン大学長の招待のレセプションがあり，学長から歓迎の辞が述べられた。この挨拶を大学の教官が通訳した。そのなかに大東亜戦争後，インドネシアは独立をかちとったという言葉が出てきた。この戦争のことをインドネシア語でどういうか私には判らない。しかし現在この言葉を聞くと異和感を覚える。しかし向うの人たちは，インドネシアの独立に日本軍が協力したことを認めているらしい。

独立の立役者スカルノの生涯は文字通りの革命家であったし，そのために斗ってきている。彼は大学生時代からインドネシアの民族運動の指導者として知られ，彼の論文「民族主義，社会主義および宗教主義」はインドネシア革命の教典とされている。

1945年8月15日，日本軍は連合軍に降服した。その2日後17日，彼はインドネシア独立を宣言した。しかしこのとき旧支配国オランダが，米英連合軍とともに，再征服のためインドネシア軍に襲いかかろうとした。彼は「米英撃滅」を叫けび，祖国を焦土としても征服者達に郷土を踏ませない決意を固めた。

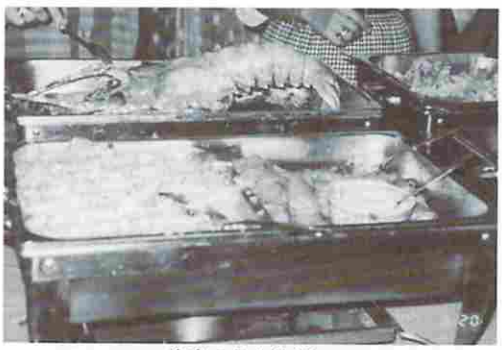
彼らは，「戦時下，〝オランダの植民地時代〟にはわれわれに対して独立の希望を何ひとつ与えなかった。いまの日本軍は，われわれの必要なすべてを教えようとしている。あらゆる面で，われわれは精神的に，技術的に全てを学びとらねばならない。いまこそインドネシア民族に与えられた絶好の機会だ」とインドネシア民族に絶叫した。

戦局は日本軍に不利になったが，インドネシア民族軍は，可なりの大きさに成長し組織化されていた。

南方軍総司令官寺内元帥より「近く独立が与えられるであろうからスカルノをインドネシア代表としてサイゴンに赴かせるように」と伝達されたとき，それを伝達した山本参謀長に抱きつき泣いてその感激をあらわしたと伝えられている。

しかし終戦処理を担当した英蘭軍も3年半にわたりゲリラ戦に悩やまされ，ついに民族の悲願に応じて，独立を認めざるをえなかった。

以上のように経緯もあり，この地の人々は日本，日本人に対して親近感をもち，「大東亜戦争」という通訳の弁もでたのでなかろうか。しかもレセプションの宴たけなわに，両国のお国自慢や歌謡曲が披露された。そのなかにインドネシア側から「軍艦マーチ」がうたわれた。今日本で耳に入るのはパチンコ屋位のもので，何だかコゾバシさと異和感がないでもなかった。



海老の長さ約40cm
（学長邸のレセプションで出されたもの）

4．インドネシアの生活事情

現在人口は1億6千万人，世界で中国，インド，アメリカ合衆国，ソ連に次いで第5位であり，人口増加率1.7%（日本0.9%），人口密度は1平方キロ80人（日本314人），政府はこの人口増加抑制に頭を悩まし，都会などで1夫婦2名以上産まないようポスターを提示している。また都会地以外では部落集会で産児制限の話し合いが行われ，3人になると村

八分にしているということも聞いた。将来人口の推計では今世紀末1億9千9百万（日本1億2千9百万）の数値が示されている。

産業について第1次産業（農，林，漁業）の就業者55%（日本8.8%）で，農業国といっても過言ではない。とくに米の生産は日本の3倍で，中国，インドについで世界第3位である。

平均寿命（1975～1980）は男48.70才，女51.30才で日本に比べると，30年の短命である。

産業については第1次産業は最高で，原始農業の域を脱せず，私どもは農村を廻ってみても機械化は皆無に等しく，人力，蓄力に頼っている。前回農村を訪ねたとき，農民と話し合い，「日本のように機械化すれば，省力化されて仕事がはかどるが」と云えば「機械化すれば人が余って，余った人間の使い途がない」と答える。米の収穫は125日位，年3期作，地主小作制度で2 ha 以下は自作農，ただし地主は大部分の土地を有し，小作料はバリ島で調査したとき，小作は収穫の⅙，田植のときは小作に200円払うという。

また生活面で電燈のない家も農村に行くと可なり見受けられる。石油埋蔵量は世界でも有数の国であるが，その発電量は日本の1億5千5百万 kw に対してインドネシアは3千9百万 kw，¼に達しない。人間の生活は日の出より日没までという感が深い。

しかし住宅状況をみると，その持家率は87.0%（日本62.3%），借家5.0%（日本37.1%）で，貧しいながら雨露をしのぐにたる住居を有するもののニッパ椰子の屋根，周辺の森林より得た木材で支柱をささえ，安らぎの場を求めるに過ぎない。また住宅における設備であるが，屋内水道2.2%（日本93.7%），便所の設備47.0%（日本100%），私は過去4回この地を訪れたが，農村では附近の川に腰までつかり用をたし，あとは手で洗い流している。ついでにマンデーも行う。私の訪ねた別荘などでもトイレにペーパーがなかったし，このような所がままある。トイレ自体水洗になっているが，その側（カタワラ）に水槽があり柄杓がついている。用がすめば，その柄杓で水を汲み，局部を洗う。これは左手を用いる。右の手は清浄なものとして教えられているからである。しかし政府は河川での排尿，排便は伝染病のまんえんにもつながり躍起となって便所の設置を奨励している。

次に治安であるが，人口10万当り窃盗81.0件（1980）日本997.6件，知能犯罰9.5件，日本68.6件で，その他の犯罪も極めて少ない。私は世界の多くの国を廻ったが，貴重品は常に肌身離なさず，携帯品は常に身近で監視している。つまり置引き防止のためである。とくに南米で，しばしば被害に遭う人が多い。この犯罪の少ないことはイスラムの世界の宗教的影響と思われ，私どもは安心して旅が続けられた。

家計収支であるが，私はかつてこの地でペ

（左側水だめ，ティシュ・ペーパーはない）

チャ（自転車の後に幌づきの乗車台をつけたもの）に乗り，運転している男に聞いた。「君らは毎日どれだけ収入があるか」その答は「1日1000ルピア（100円）あればいい。そのうち500ルピアはペチャを借りているボスに払う。つまり残りの500ルピア（50円）あれば食ってゆける」これは数年前のことで今はどうか判らない。なおタクシーは1時間1000円，バスは市内25円。2年前，大学の教官の待遇を聞いたが，講師で月額7—8万円，教授で13—

20万円，ただ医学部ではアルバイト，他病院もしくは開業しているものも多く，ある講師は晩9時頃まで働いていると云っていた。従って医学部教官は優雅な生活をしているらしく，招かれた邸宅は豪しゃなものであり，私どもが一夜お世話になったマリノの別荘には10数名宿泊し，歓待をうけ感謝している。

家計収支は，エンゲル係数(飲食費)は52.8％（1968—69），日本は26.7％（1982）に比較して極めて高率であり，彼等の労働の対価は，生きるための飲食費に大きなウエートをもっている。

しかも摂取カロリーは平均2296カロリー（1978—1980）で，日本人は2883カロリー（1978—1980），摂取熱量で約600カロリー少ない。私は数年前バリ島のウブドーで，約100名の血圧測定を行ったが，高血圧は皆無に等しく，ただ1名ホテルのオーナーの母親のみ高血圧を示した。

かの地に行けば必ず民族舞踊をみせられる。あのしなやかな身体のこなし，幽玄とも思われる手足の動き，肥満体ではとうていさまにならない。

教育について述べれば，色々の資料を渉猟したが，1971年のものしか見当たらなかった。10数年前であるが，その文盲率は国民の43.3％（男30.4％，女55.4％）で半数近くが読み書きできない。ちなみに日本の文盲率は1980年，0.3％（男0.2％，女0.5％）で世界でその比率は最も低い。ＵＳＡでは，男1.1％，女1.0％。これについて一つの思い出を附け加える。中部太平洋で敗戦をむかえ，アメリカの捕虜となり，ＬＳＴ（上陸用船艇）で故国へ送還されることになった。何分にも日本まで10日余り。そのうち米軍の黒人の水兵と仲よくなり，時々コーヒーなどを持ってきてくれる。それで君の名はと問うと答える。それで住所と名前を紙に書いてくれというと書けないと答える。日本兵ではこんなものはいないが，字も書けない彼等に負けたと思うと全く面白くない気がした。

なお20—24才の年令で高等教育を受けているもの3.3％，日本では男43.1％，女23.1％（ＵＳＡ　男55.5％，女60.7％）。この点についても地域開発のため私どもも考慮が必要と考える。

私の最も関心をもったのは衛生事業である。前回医学部の教授に，この国の死亡原因についての資料をお願いした。しかし帰るまでに頂けなかった。考えてみるとインドネシアにおいて医師1人当りの人口11,740人，（日本714人）病院数998（日本9403）1982年，1ベット当り人口1751人，（日本85人），以上の如き数値からみると，たとえ病気に罹患しても医療を受けるものは極めて稀であるとしか考えられない。死亡の数値は判るもののその原因についての統計は不可能といってもよい。何分にも5000kmの広範囲にひろがるこの国，私どもも今後この方面に力を注ぐべく努力したいものである。

ただ主要伝染病についての罹患率が調査されているのでここに呈示する。

この数値から特徴的なことは，梅毒，りん病という性病の多発，またマラリヤの発生率は極めて多く，かつて訪れた農家では昼間でも蚊帳をつるしてひる寝をしている。私ども

主要伝染病罹患率（人口10万対）

疾病 国	全結核	梅毒 りん病	赤痢	腸チフス パラチフス	髄膜炎 菌感染症	マラリア	しょう紅熱	ジフテリア	百日咳	ましん	インフルエンザ	トラホーム
日本	55.1	8.6	0.3	0.4	0	0	1.3	0	2.9	2.9	16.9	0.2
インドネシヤ	77.0	39.0	—	5.5	—	399.5	16.5	1.4	0.1	0.5	192.0	—

調査年　日本1981年インドネシヤ1979年（国際統計要覧1986）

一行は，このことをおもんばかり旅行前マラリヤ予防薬の服用を指示された。しょう紅熱も日本より可なり高率であるし，インフルエンザも多発顕著である。

マラリヤはマラリヤ原虫寄生虫によって起り，3日熱，4日熱，熱帯マラリヤがあり，これはアノフエレス（ハマダラカ）が伝搬する。インドネシア・スラヴエジでは恐らく熱帯マラリヤであろうが，これは不定型の高熱，39—41℃を発し，他型のマラリヤと等しく極点をすぎると発汗下熱する。これを放置すれば脾臓や肝臓が腫れ，原虫が赤血球に寄生するため貧血を起し，最悪の場合は脳の小血管につまり脳軟化を起こす。

私は戦時中，中部太平洋ミクロネシアに駐留していたが，等しく熱帯とはいえ，アノフエレスが棲息せず，マラリヤが発生しなかった。しかし，デング熱という熱帯性伝染病が多発した。成書によればインドネシアにも流行するとされているが，これについて一行中誰も関心をもたなかった。私は中部太平洋トラック島で，これに感染し，約1週間高熱に悩やまされ呻吟した。これはネッタイシマカ，ヒトスジシマカが媒介するビールス性熱帯病で，一度罹患すると免疫ができるといわれていた。

私ども旅行中，ホテルその他で大小さまざまな蚊が飛来したが，幸にマラリヤに罹患することなく無事帰国した。これも事前に配慮いただいた予防薬服用の効果かも知れない。

なお，疾病にかゝり，医療をうけると，診療費は，一般住民25%，社会保険加入の公務員，企業従業者は75%を支払うそうである。またウジンパンダンでは失業率現在15%　日本は2.6%，(1983) で，この地では日本より可なり高率であるが，農業人口が多いから国全体としての失業率は，この数値より可なり下まわるかも知れない。

5．モスク　Mosque.

私はかつてイラン，パキスタンを旅し，何れの土地へ行っても数多くのモスクを見た。砂漠のなか，僅かばかりの耕地，またオアシスを求めて村落がある。それが小さくても必ずモスクがある。しかも壮厳華美，頂きにもりあがるネギ坊主のようなドームのおおいは緑に映える。

ウジンパンダンよりマリノへの道路，山あいを求めて，部落が点々としている。そこには必ずモスクが眼につく。イスラムの教堂である。ウジンパンダンを離れると，多くはトタンを継ぎ合せて作られたような見すぼらしいネギ坊主である。アラブの世界では何れも石造か，レンガを組合せて形作ってある。

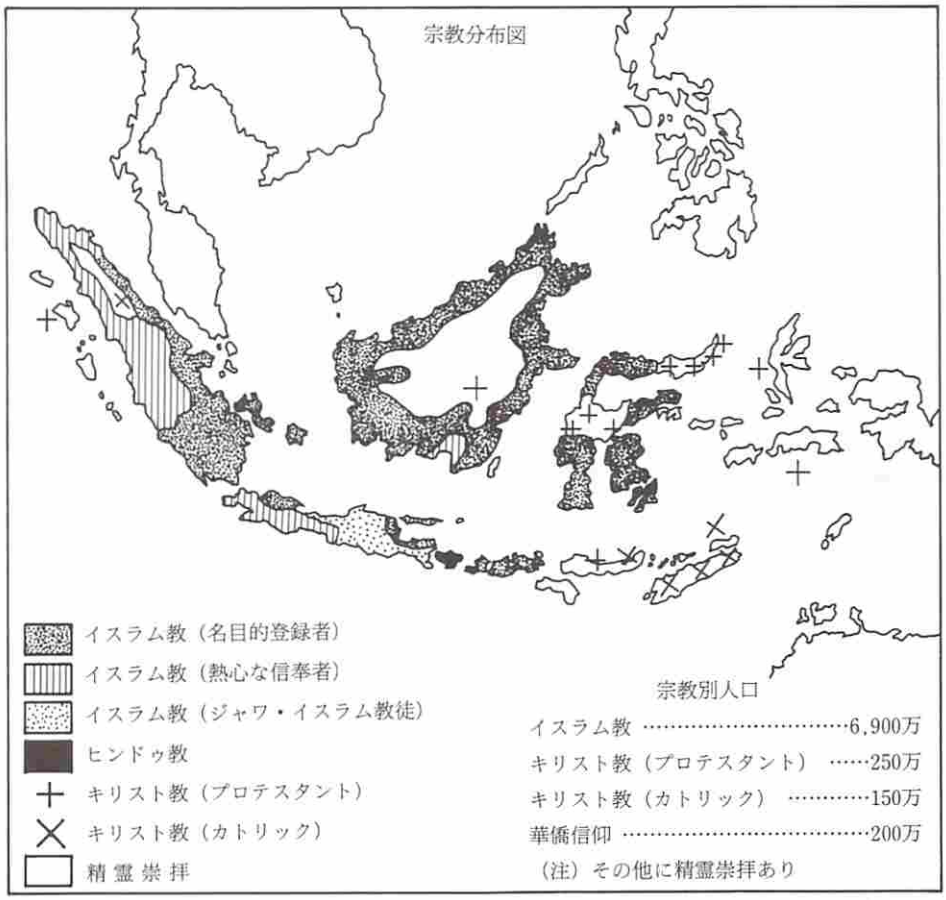
さてインドネシアは憲法第9条によって信仰の自由が保証されている。その信者を大別するとイスラム教は人口の80%，ヒンズー教及び仏教は6%，(主としてバリー，ロンボック，東部ジャワ)，キリスト教(プロテスタント，カトリックを含めて) 6%，孔孟の教えを奉ずる華僑は2%といわれている。

その宗教分布図を次図に示す

インドネシアにおけるイスラム教の渡来は14世紀，ペルシヤ，インドの商人がマライ半島からマラツカを経てスマトラへ，それが南進してジャワに拡がり，16世紀には仏教王国モジョパイト王朝を倒してから全域にイスラム教が波及した。

ただ10数年前アラブを旅行したとき，女のチャドル姿が多くみられたが，ここでは見ることができなかった。しかし大学の人にこのことを質した所，女性はモスクへ入り，礼拝の前にチャドルに着換えるそうである。私はモスクの内部へ入る機会を逸し確めえなかった。

私は，ホテルでの朝の寝ざめは街角の拡声機から流れるコーランの響きである。礼拝は1日5回，(1)スフル　これは早朝東天が白らんで太陽の出るまで，(2)ズプル　これは正午



（田村三郎：インドネシアのあらまし）より

頃人の影が最短になり，延び始めるとき，その人の身長と等しくなるまで，(3)アスル　午後3時から5時まで，ズプルの終りから太陽の沈み始める頃までの間，(4)マグリブ，日没，太陽が没し絶ってから夕ばえの消えるまで，(5)　イシヤー，マグリブの後，スプルの前とされるが，実際は夜を3分し，その初めの間。（前島信次：世界百科大字典）

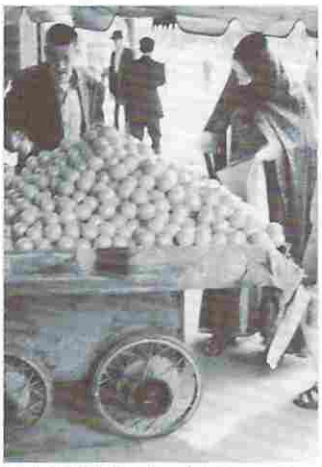
イスラムの教義は，アラーがマホメットを通じて啓示した言葉とされている。全知全能始めも終もなく，その力は無辺際で，至全至善のものである。コーランの用語は韻を含んだ部分が多く荘重，優美で，これを唱え，また聞くと快感を覚える。

またアラーの神に仕えるため5―6の勤めからなる柱がある。それは，(1)シヤハーダ（念真）(2)サラー（礼拝），(3)サウム（斉戒，俗に断食）(4)サカー（捐課＝喜捨）(5)ハッジ（朝勤）　しかも金曜日の午時の礼拝は重要視され，説教が行われる。

私は，はしたなかったが，日本の仏教の寺院のある一部かも知れないが分に応じてお布施や盆暮の割当制で金を集める。こちらもモスクの経営には金がいるだろう。この点について大学の教授に聞いてみた。その答は金曜日の礼拝のとき，それぞれ貧しいながら喜捨を行うそうである。

私は街を歩きながらモスクに眼を止めると，流石ウジンバンダン市内のものには，アラブで見たモスクに匹敵するものも時々見受けられた。これも都会地と村落での経済力の差の著しいせいであろう。

モスク（マリノ）


チャドルを着用した婦人（イラン，テヘラン）
（イラン，テヘランにて1953年）

男性の外出用服装
（イスラム形式）ウジンバンダン

6．塩　　田

かつて瀬戸内海の風物詩として，訪れる人々の眼を楽しませた塩田は，その姿を消して永い(1971年)。今その跡は工場群や住宅が建ちならび面影すらみることができない。ただ観光用としての能登の0.1 ha と伊勢神宮の神饌用の塩作りは，テレビを通じて放映され私どもの眼にふれるにすぎない。

私は以前にバリ島を旅行したとき広大な塩田を見，今度はゆっくり観察してみたいと考えていたが，余裕がなく目的を達しえなかった。しかしウジンバンダンのホテルより空港へ走る車のなかから垣間見ることができた。

これは海の干満を利用した遠浅の入浜塩田で，広大な砂地を平らにし，海水を塩田内に導入して，滲透させ，太陽と風力で水分を蒸発させるものである。その一区画の縁に白く塩が浮いて付着しているのが車中より望見できた。日本では，史実によると1500年前紀州の沿岸で製塩が行われたという。また所によっては煙のあがっている所もあり，濃厚な食塩水を火力を加えて煮つめて食塩の結晶を作っているように思われる。

私どもは40数年前，中部太平洋の孤島で，炎と餓えにさいなまれながら塩作りをした。これはトタンで，浅い箱型のものを作り，これに海水を注いで，マングローブを燃やし，水分の蒸発をさせた。水分がなくなると底に塩が残る。ただしニガリがどうしてもとれず，それでも生きるために食える雑草を入れてて塩汁を作り生命が永らえた。ここは珊瑚礁で塩田を作ることはできなかった。

また私は50年前，中国のターク（天津の外港）で岩塩の山のよう積まれたものをみたし，フランスのプロバンス（地中海沿岸）の古くはローマ法王庁の所有だったミデイの塩田，アメリカのソートレークシティ，その名の如く塩湖を有し，ともに白い塩がピラミッドのように積み上げられていた記憶が蘇える。

次に機会があれば，この地の製塩の過程を詳しく観察したいと思っている。

ウジンバンダンの塩田

ソルトレーク（アメリカ，ユタリカ）の塩田
（左信大岩井教授，中央豊田，右久留米大高松教授）

フランス，地中海沿岸
ミデイの塩田

7．丁　子（ちょうじ）

マリノではハイルデイン教授（平和財団理事長）の別荘で一夜ご厄介になり，最高の歓待を受けた。

朝まだき庭にでて，周辺の眺望にみとれているとき，同行の人が垣根を指さし丁子の木ですよと教えてくれる。このまわりに植えこまれている。凝視すると青い実か蕾かわからないが枝先に群生している。

先に述べたようにインドネシアの発見，西欧諸国から求めて止まなかったものは香辛料である。この香辛料は古くから金についで探し求めたもので，その熱望は，歴史や地理のコースを変貌もし，新しい土地の発見，取引航路の開拓，植民地の開発などに大きな役割を演じた。

昔アラビアが，香料や香辛料の母国として名声をもっていたが，実は商品の大部分が，インド，インドネシアから運んだものであった。しかし中世，オスマン帝国が小アジアを中心に西アジア，南東ヨーロッパ，北アフリカにまたがる広汎な版図を有し，東西交通を分断した。そのためヨーロッパ人のインド，あるいは東太平洋への航路の探索が始まり，

ハイルディン教授別荘にて招待パーティ

パーティのごちそう

コロンブスの進発となり，さらにその数年後，ガマによってアフリカ南端の喜望峰廻りのインド，熱帯アジアへの航路が発見され，ついに東経127°から130°の間に散在するモルツカ諸島を発見，これが香料諸島と呼ばれた。最初は世界における唯一の丁子の産地は，バンダ諸島であった。しかし各国は，その所在の王国と結び，斗争を繰り返し，最後にオランダ人が支配権を握った。東洋において香辛料とし早くから知られていたものはショウガで，調味料として，また医薬として中国でよく用いられていた。

香辛料として肉桂，丁子，胡椒の三つがあげられる。丁子は肉や野菜の香辛料として，今なおインドネシアの特産的地位を確保している。丁子はフトモモ科の常緑喬木で，高10m位になり，この地域で栽培されている。そして蕾が紅色になった頃に採取して乾燥したものが丁子で，粉末にして，食慾，増進，健胃剤，かぜ薬，染料に用い，また香水，歯みがき，菓子にまぜ，その芳香を利用している。

この丁子をマリノの別荘で，実物を始めて確めえ，香辛料につながる歴史を略述してみた。

水を運ぶ

いつも注意されるが，海外旅行には必ず生水をのむなといわれる。ホテルには煮沸した冷水ポットに用意してあるからこれを用いこと。何分にも川水はたとえ山から流れるとも，その上流でマンデーや用便によごされている。

マリノで滞在中，早朝散歩にでると，ポリ容器に水を入れて運ぶものが多い。これは1日の炊事や飲料に用いるものらしい。前回スラヴエージの平地の村落でみたが，村に一つの井戸があり，共同で使用するらしく釣瓶をおろして汲み上げていた。浅井戸であり，同行の鑿井業の人は，深井戸を掘ると塩分が多いのでなかろうかと話していた。このことについて前回の記録に水に関することを叙述したので略するが，私の居住は高岡市南部，庄川の伏流水に恵まれ，市水道の水源地もあり，鑿井でポンプアップし，夏は冷たく，冬は暖かい。これを考え，毎日遠くから井戸水を運ぶマリノの住民の苦労を眼のあたりにみ，このことも技術開発援助の一端として，私どもの課題ではなかろうか。

ハイルディン教授夫妻

8．国旗と国歌

上下同じ大きさの赤広二色からなる。上部の赤は勇気，下部の白は純潔をあらわす。国旗の縦横の長さの比は，2対3。この国旗は1945年，オランダ領からの独立宣言と同時に共和国旗に制定された。スカルノが国民党をひきえてオランダに対する独立運動を始めた1927年以来用いていた。

私どもの渡航は8月19日で，全土独立記念日で，道路にこの旗が，風になびいて所狭しとたてられていた。

私は世界各国を廻って日本程国旗を尊重しない所はない。これは学校教育のせいかも知れない。アメリカは何処へ行っても星条旗がはためている。かの地の私の友人に尋ねてみた。その答は，アメリカは各種民族の集合体で，これを一つの国家として統合一致させるため星条旗のもとに団結せよとの象徴であると。

次にインドネシアの国歌を掲載する「インドネシア・アラヤ」といわれW・R・Supratman（1903—38）の作詩作曲したもので，1928年の青年会議ではじめて歌われ，これがインドネシア独立後国歌に制定された。その独立を謳歌し，民族の統一と繁栄を祈願する詞でみちている。

インドネシア　わが祖国よ
これこそわれらが生きる所　われ憶(アコガ)れ
インドネシア　わが国家よ，わが民族よ
　わが祖国よ
共にインドネシア統一を叫ぼう
万才 すべてのわが土地 万才 わが国家
わが民族　わが国民
起てわが同胞　大インドネシアのために
インドネシア　ムカルデ(独立)　ムカルデ
わが愛する祖国よ
大インドネシア　ムカルデ　ムカルデ
大インドネシア

おわりに

真夏の熱帯に10日近く，密に組まれた日程を消化して，全員つつがなく帰国されたことは同慶にたえない。私はこの間，心に刻まれた印象を綴ってみた。もちろんインドネシアに関する文献も渉猟し，誤りのなきを期したが，個人的見解の域を脱しえないかもしれない。私はインドネシアへの渡航は4回で，それぞれの機会に，できる限り実情把握に努めた。

ただ一言附け加えたいのは，団員のうちには渡航の経験を重ねている人もあろう。そのなかに聞きかじりと自分の判断で，始めての人達に話しているものがないでもなかった。それで渡航前に一応インドネシアの現状，風俗，習慣，ことにこの国の成立の概要についての知識を頭に入れ，現地でその事象を観察し，心の糧にすべきではなかろうか。

例えば，私がスエーデンに赴いたとき，世界に誇る社会保償，ことに老人ホームを訪問する積りで，県内の老人の養護施設の2，3をみ，これと対比してみた。私の今まで足跡を印した国は30余，しかもそれぞれの国の成り立ちがちがうし，政治体制もまちまちである。そのためにも今回のインドネシア訪問も事前にこの国の歴史，生活慣習，政治経済について念頭にいれておく必要もあったろう。このようにして始めて現地の人々と忌憚のたい意見交換もできる。観光が目的であれば，私は同じ所へ，2回も3回も行く必要はないと思う。私はその国の色々の事情を頭に入れておけば，幾度行っても新しい認識をえ，心の糧として何らかをつかんでこれる。

私は今回，食塩濃度計を持参した。それは食餌の塩分測定をやりたかったからである。しかし日程の関係で割愛せざるえをえなかった。これは2回目の渡航のとき，バリ島住民の血圧測定を行ない。高血圧は皆無に等しかった。この原因として摂取食餌の塩分が少ないのでなかろうかの疑をもた。色々の文献を拾ってみると摂取カロリーの少ないことがわかった。ただそれだけでは解釈することができないかもしれないと考えた。

今度は富山村も林会長のご尽力により立派にできあがり，これを拠点として日本とインドネシア，ことにスラヴエジとの友好，さらに各種の文化，芸術，科学技術の発展への協力も続行されると思う。

私は，アウトサイダーかも知れないが，私の今回の旅行の印象をしたため，まとめとして敢て愚言を呈する

終りに臨み，渡航，滞在について富山インドネシアや協会林隆文会長の物心とともにご配慮いただいたことに対し深甚なる謝意を表する。